

# P R E S S   R E L E A S E

## タイポグラフィ学会研究論文発表会のお知らせ

2008年11月22日

タイポグラフィは複製手段である印刷術から生まれたことばであり、印刷術の実践の歴史とともにあります。タイポグラフィは活字の設計・製造からその有効で的確な使用法を模索し実践する技芸であり、人々の知的生活を支える書籍・教育・商業・娯楽などの分野で不可欠な要素となっています。

21世紀に至り技術革新は実験と試用の時代を経て実用の時代に入り、それに伴いタイポグラフィは時代の抱える新しい課題への対応が求められています。将来の活字文化と文字情報社会の充実に積極的に参加するために、先人による蓄積を尊重し学びつつ、そこに再検討を加える研究や新しい視点からの研究、さらには批評的なまなざしを忘れず、関連する他の分野との学際的な交流を通して、人々の暮らしと文化的な活動を支える必要があると考えます。

2005年8月、タイポグラフィ学会はタイポグラフィという技芸に学問的な基盤を与え、その成果を実技・実践に生かし、有効で豊かな展開を通して社会に貢献し、タイポグラフィに関する課題やテーマに専門家諸氏の英知を結集して研究の光を当て考察を加え、洋の東西にとらわれない学術研究を体系的に推し進める機関として設立しました。

タイポグラフィ学会設立から3年が経過し、タイポグラフィ学会誌も第2号を出版することができました。ここに学会誌に掲載された研究論文の発表会を開催いたします。学会員だけでなく多くの方々の参加をお待ちしています。

タイポグラフィ学会会長 京都造形芸術大学教授 佐藤淳

---

### タイポグラフィ学会研究論文発表会

日時：2008年11月22日（土）13時より（12時より受付）

会場：京都造形芸術大学 望天館1階（情報デザイン学科プロジェクトホール）

住所：606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116 電話：075-791-9280（情報デザイン学科研究室）

山本太郎 アドビシステムズ株式会社

「タイポグラフィにおける文字の大きさに関する考察」

「Morisonによるタイポグラフィの定義についての考察」

石橋道大 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院教授 カリグラファー

「グーテンベルク四十二行聖書の活字と写本の字の関係について」

河野三男 東洋美術学校 非常勤講師

「タイポグラフィ学の専門領域の設定についての考察」

板倉雅宣 元東京書籍印刷 印刷史研究者

「オランダ商館文書にみる長崎の印刷技術と活字」

朗文堂アダナプレス倶楽部 蝶番式プラテン小型活字版印刷機による金属活字印刷の実演

朗文堂出版物、学会誌も販売いたします。

懇親会 17時30分より至誠館三階学生食堂にて（会費制3,000円）

発表会、懇親会に参加希望の方は、11月13日までお申し込みください。

会場へのアクセス

- JR「京都」駅、阪急「河原町」駅、京阪「三条」駅から、京都市バス5系統「岩倉」行きに乗車、「上終町京都造形芸術大前」下車（京都駅から約50分 河原町から約30分 三条駅から約20分）
  - 京都市営地下鉄烏丸線「丸太町」「北大路」駅から、京都市バス204系統（循環）に乗車、「上終町京都造形芸術大前」下車（約15分）
  - 京阪「出町柳」駅から、叡山電鉄に乗り換え「茶山」駅下車、徒歩10分
- なお、駐車場はございません。お車でのご来場はご遠慮ください。

---

本件のお問い合わせ先

タイポグラフィ学会（京都造形芸術大学 情報デザイン学科研究室内）

606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116 電話：075-791-9280 ファクシミリ：075-791-9434